

## 「分度推譲」を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾の塾長の林明夫です。今朝も開倫塾の時間をお聞きいただきありがとうございます。

今朝は最初に、福田昭夫栃木県知事が分度推譲ということを懸命に訴えておられますけれども、なかなかなかなか分かりにくいと言うことでご批判があるようです。私の理解する範囲のことについて少しお話させてもらいます。「分度」という字の「分」は分かるという字ですよ。その分度の「度」というのはですね、私の理解ですと「度合い」ですよ、「度合い」。つまり、自分の収入の「度合い」、であると私は考えます。「分度」の「度」というのは「自分の収入の度合い」。「分」というのは、「分かる」ですね、「分かる」。ですから、「度が分かる」。「分度」というのは「度が分かる」、つまり「自分の収入の度合いが分かる」というふうな意味です。もうちょっと突き詰めていうと、「自分の収入が分かった上で、分かったということは、その上で、それに応じた支出をする」と、それが「分度」という意味だと思います。これを行政にたとえて言いますと、「栃木県の収入の状態が分かる」、収入の度合いが、「度」ですね、収入の度合いが分かることが、「分度」。その結果、分かるということはじゃあどういう風に使うかということも理解しなくてはいけない。「栃木県の収入の度合いが分かった上で、それに応じた栃木県としての支出をする」と、そういうことが分度の意味です。行財政の見地からいいますと、「自分の収入の範囲で支出をする」と、それがですね、おそらく、私は「分度」という意味の正確な意味ではないかと思います。「収入に見合った支出をするための、これからやらずにやらなければならないことは仕組みをどういう風につくるか」と、これが大事だと思うんですね。これからしなくてはならないことは、まだ福田知事はそこまで言っているかどうか分かりませんが、私がお願いしたいのはですね、「収入に応じた支出をする。これが分度ですから、そのような仕組みをどのように作り上げるか」と、これが栃木県としてこれからしなければならないことだと思います。

「市町村の、市も、町も村も収入に応じた支出をする仕組みをつくる、と」、これが大事だと思います。小泉首相は、「地方にできることは地方に」というようなことを言ってらっしゃいますけれども、今度は、「税金を地方でとっていいよ」というようなことになってくると思うんですね。「地方交付税が見直し」をされて、少しずつ財源が地方に来ます。「地方で得た収入、税金の収入に応じて、地方自体が、県とか、市町村自体が自分の責任で支出をしないさい」と、これが国の基本的な方針ですから、今度はその中身を考えなきゃいけない、これが県の仕事、市の仕事、町の仕事、村の仕事に

なるわけです。これを非常に良く表現した表現が、「分度推譲立県」。福田昭夫栃木県知事がおっしゃっている「分度推譲立県」の「分度」の意味だと思います。こうなると、「行政改革をどうするか」という話がこの後出てこなければいけないわけです。ぜひ、これからは行政改革をどんどんどんどんして頂きたいと。そのためのキーワードが「分度」だと、私は思います。

それから「推譲」、これは「すい」は「推す」ですね、「じょう」は「譲る」これは簡単なんですね。

「譲る事を推進する」こと。つまり「自分自身計画を立てて少しずつ余裕をだして、余裕を作り出す。計画的に強い意志を持って少しずつ作り出す。ということは、いままでご飯を2杯食べていたら1杯半にするとか、それで半分の所を余裕として作り出す、そういう風な意味です。100円お金を使っていたら80円しか使わないで20円を計画的に余裕を作り出す、これが推譲だと思うんですね。推、譲る。それで少しでも余裕を意識的に作りだして、厳しいでしょうけれど、強い意志を持って、余裕を作りだして、それを社会のために譲る事を推進する。そういう事だと思います。ですからこれから大事な事は、コミュニティビジネスであるとか、それからNPOとかそういう形で、正常の賃金はもらえなくても仕方がないと、そういう風に考えて頂いて、その代り少し頂いたりとか、実費だけ頂いて、社会のために仕事をする。そういう事で「公の仕事」つまり公共部門の仕事を少しずつ、県民、市民、村民、町民が分担をすると。これが「推譲」の意味だと思います。

福田昭夫知事がおっしゃっている「分度推譲」の意味がわからないということですのでいぶんご批判がありますけれど、私は今のような理解をしています。「分度」というのは収入の度合いを理解をする、と。県の収入、市の収入、町の収入の度合いを理解して、その範囲内で支出をする。緊縮財政ですよ。それで民間にできる事は民間に、という事でコミュニティビジネスとか、NPOとか、それから規制改革をして一般の県民に、できるだけ行政の仕事を分担をして頂く。規制改革をして、民間が公共部門の仕事をできるようにする。県とか町とか市とか村とかを支えていこう、これが「分度推譲」の考えだというように私は思います。ぜひ福田昭夫知事にはそんな風にやっていただきたいなあと 생각합니다。皆さんもぜひ、「分度推譲」の意味をご自分なりに考えてみてはどうでしょうか？ 200万人の全県民が「分度推譲」とは何かをご自分のこととしてご自分でお考えになり、やれる範囲のことを実際におやりになって頂ければ、必ず素晴らしい県ができるのではないかと思います。